

伊藤病院だより
WINTER

Voice

2017年12月1日発行 第60号 東京都渋谷区神宮前4-3-6 伊藤病院広報誌委員会



南青山ル・アンジェ教会

当院は被災地支援に積極的に参加しております

◆伊藤院長が東海村にて講演しました

東海村のある茨城県は福島県と隣接しており、東日本大震災による福島第一原発事故後の健康への影響を懸念する住民の方々がいらっしやいます。東海村では、健康不安を軽減するため、2012年から小児を対象とした甲状腺超音波検診事業を実施しており、この度、2回目となる2016年度の検診結果について、8月26日に結果報告が行われました。



伊藤一院長は、この検診事業の検診委員会に委員として参画しており、結果報告の記者会見に同席するとともに、検査結果について不安を抱える方々のために企画された講演会で、甲状腺の病気についてわかりやすくご紹介しました。



国際医療福祉大学からの実習生を受け入れました

国際医療福祉大学は、1995年に開設された医療福祉を専門とする総合大学です。

そして、医療の経営管理と医療福祉を統合した「医療福祉・マネジメント学科」を開設し、広い知識を持った専門職の養成を行っています。

当院では、毎年、同学科の3年生を実習生として受け入れており、今年も2名が1ヶ月間、当院で実習を行いました。実習を終えたお二人からご挨拶を頂きましたので、ご紹介します。



館野拓馬さん(左)と小出芽久さん(右)

小出芽久さん

1ヶ月間、実習をさせていただきありがとうございました。

実習では、診療情報管理室や医事室をはじめ、多くの部署で見学や貴重な経験をさせていただきました。診療情報管理室では、それぞれの業務を教えていただきながら、実際に業務を体験することで、診療情報管理士の役割や他部署の方々との連携を学ぶことができました。また、大学で学んだことが、実際の現場では、どのように使われているのか知ることができたと同時に、より深く理解できるようになりました。

今回の実習で学んだことは、大学の座学では得ることのできない体験が多く、新鮮で驚きの毎日でした。この実習で学んだことを忘れ

ず、今後の勉強や将来に生かすことができるよう、努力したいと思えます。

お忙しい中、このような有意義な実習を提供して頂きましたことに、深く感謝しております。あたたかく、丁寧にご指導して下さった職員の皆様、本当にありがとうございました。

館野拓馬さん

7月31日より4週間、伊藤病院で実習をさせていただきました。

実習では診療情報管理室、医事室を中心に院内の様々な部署を見学し、それぞれの部署で行われている業務について学ばせていただきました。様々な部署の業務を知ることによって、部署、職種間でどのような連携が行われているかがわかり、診療情報管理士の院内での立場、その重要性を深く理解することができました。また、大学の座学で学んでいることが実際の現場ではどのように機能しているのかだけではなく、机上では決して学ぶことができないことも学ばせていただきました。

病院実習が始まり不安や心配でいっぱいだった私たちでしたが、伊藤病院の皆様があたたかく、とても親切に接して下さったおかげで、何不自由なく本当に充実した4週間となりました。

改めまして、実習を担当して下さった皆様をはじめ、伊藤病院の皆様方、お忙しいなか私たちのために時間を割いてご指導下さり誠にありがとうございました。伊藤病院で学ばせていただいたことを、今後の学生生活や就職活動に活かしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

医療の国際化に向けて

◆第40回ヨーロッパ甲状腺学会

伊藤病院 外科 尾作忠知

2017年9月9日～12日にセルビア、ベオグラードで開催された第40回ヨーロッパ甲状腺学会に参加してまいりました。本学会はEU諸国を中心として、アメリカ、アジアなど世界中から甲状腺専門医が一同に集結し、最新の甲状腺診療に関する知識交換を行う学会です。当院からは杉野副院長、松津外科医長、内科國井先生、外科尾作の4名が発表を行いました。

杉野副院長は放射性ヨウ素内用療法に抵抗を示した甲状腺分化癌に対する分子標的薬の最適投与タイミングは有症状になる直前であることを報告いたしました。松津外科医長は2017年にAJCC/UICCから出された新しいTMN分類(第8版)とこれまでの第7版について、当院の甲状腺乳頭癌のデータを用い8版と7版では8版の方が予後に即した分類であることを報告いたしました。内科國井先生は甲状腺超音波所見におけるのう胞性疾患の位置の頻度は下方背側に多いことを報告いたしました。尾作は過去に嚙胞癌と診断された症例を再度病理組織学的に検討し、現在の分類に当てはめることで診断や予後が変わる可能性があることを報告いたしました。

学会参加の目的は当院からのデータを報告するだけでなく、最新の甲状腺診療に関する新たな知識を吸収するためでもあります。甲状腺癌の分野でも分子標的薬による治療のデータが出てきておりますが、まだまだ選択できる薬剤は少ないといえます。新規分子標的薬などの開発が待たれている状態で、今回の発表の中では分子標的薬を術前に使用することで根治手術可能となった報告がされておりました。もちろん症例の慎重な選択や適応などは考えるべきと思いますが、根治手術不能な症例が今後減らせるような治療法の開発に期待を寄せながら帰国いたしました。



杉野公則副院長



松津賢一外科医長



尾作忠知医師



國井葉医師

◆第87回米国甲状腺学会で発表しました

伊藤病院 内科 渡邊奈津子

米国甲状腺学会による年次学術集会在10月18日から22日までカナダ プリティッシュコロンビア州 ビクトリアで開催されました。

この学会は、米国・カナダだけでなく、欧州、アジアなど世界各国から甲状腺の専門医が集まり甲状腺疾患についての発表や活発な議論が行われます。当院から吉村、宇留野、吉原、渡邊の4名が参加いたしました。宇留野医師は未分化癌のマーカーとしての血清p53蛋白の有有用性について、吉原医師は新生児バセドウ病とTSH受容体抗体について、渡邊は甲状腺中毒症における心筋マーカーの上昇について、それぞれの研究結果を発表しました。様々な質問があり大変有意義な学会となりました。



宇留野隆外科医長



吉原愛内科医長



渡邊奈津子内科医長

◆第55回日本医療・病院管理学会学術総会

9月17日～18日に、第55回日本医療・病院管理学会学術総会が昭和大学・旗の台キャンパス(東京都品川区)で開催され、伊藤公一院長がシンポジストと座長を務めました。

日本医療・病院管理学会の前身となる日本病院管理学会は、1963年に設立され、わが国の病院医療のみならず、国民の保健・医療・福祉全般にわたる学術活動を展開して参りました。学会の規模・活動範囲も次第に拡大し、2008年に日本医療・病院管理学会に名称変更されました。

伊藤院長は「メディカルツーリズム：韓国と日本を比較して」をテーマとしたシンポジウムで、日本におけるメディカルツーリズムの現状と当院の取り組み状況についてお話しし、他のシンポジストと活発なディスカッションを行いました。



医療の国際化に向けて

◆第8回国際観光医療学会学術集会在開催されました

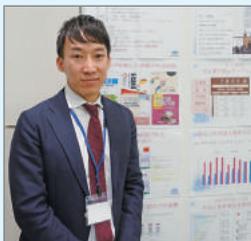
伊藤病院 国際医療室 テイクン

第8回国際観光医療学会学術集会在和歌山県で開催されました。和歌山県立医科大学が主催した第8回目となる今学会は、医療観光に取り組んでいる医療施設は勿論、アウトバウンドなどに関心を持つ企業なども参加し、特別講演では院長伊藤公一が座長を務めました。

ビザ緩和や円安などが奏功し、日本を訪れる外国人が年々増加傾向にある中、日本の医療機関に受診する外国人患者様も増えつつあります。

私からは「在日外国人患者様への取り組み」をテーマに発表させていただきました。2016年当院に受診した外国人患者様の延べ件数は1,754件、昨年度に比べると500件以上も伸びています。その要因の一つに、2015年新たに国際医療室を増設し、2名体制で言語に不安を持つ外国人患者様に、無料で通訳を提供してきたことが挙げられると思います。また、外国人患者様達の口コミや、言語に不安を持つ連携施設からの紹介も欠かせないと思います。さらに、受診した患者様の約6割の方が日本に在住している外国人患者様であることなどを触れながら発表いたしました。

今後も、当院ならではの通訳サービスをより多くの甲状腺を病む方々の外国人患者様に提供して行くよう努めて参りたいと思います。



◆伊藤院長がRSR Limitedで講演しました

伊藤公一院長が、イギリスにあるRSR社で社員の方を対象として「現在の日本の医療問題」をテーマに講演しました。

RSR社は、パセドウ病の診断では欠かすことができないTSHレセプター抗体の測定方法を初めて確立した、甲状腺疾患研究の第一人者であるDr. Bernard Rees Smithが設立した会社です。

伊藤院長は講演で、当院の紹介から日本における医師の育成・教育制度、そして日本の医療制度まで幅広くご説明しました。

◆第9回日仏医療マネジメント研究会を主催しました

8月31日から9月5日まで、日仏医療マネジメント研究会を開催しました。この研究会は、伊藤院長が団長を務めており、国際医療福祉大学 高橋泰教授とともに医療機関の管理者を中心とするメンバーで、フランスの医療・介護についての視察・意見交換会を目的としています。

今回も、日本の健保連に相当する「疾病金庫」、薬剤師や検査技師・栄養士・療法士などが集まって開業している「パラメディカルモール」（フランスではそれぞれが独立して開業しています）、フランスで最も高齢者率の高いマントン市役所の高齢者医療政策課、SAMUといわれる救急医療サービスなど、多くの施設を訪問しました。フランスにおいても、公的保険での高額医薬品の取り扱いや、人口減少及び医師の高齢化の問題など、日本と共通の課題もあり、非常に活発な意見交換を行いました。またフランスでは介護について大統領選挙でも争点となるほど問題になっているとのことで、日本の介護について多くを学んでいるとお話もあり、大変充実した研究会となりました。

2018年 臨時の外来診療休診日について

2018年 臨時の外来診療休診日

6月28日(木) ~ 29日(金)

(日本内分泌外科学会総会のため)

下記学会中は医師の代診・休診が多くなります

4月26日(木) ~ 28日(土)	日本内分泌学会学術総会
10月25日(木) ~ 26日(金)	日本甲状腺外科学会学術集会
11月22日(木) ~ 24日(土)	日本甲状腺学会学術集会



学会活動

ピックアップ 第60回 日本甲状腺学会学術集会

伊藤病院 内科医長 吉原愛

2017年10月5日から7日にかけて、大分県別府市にて第60回日本甲状腺学会学術集会が開催されました。「科学的・合理的な医療を支える甲状腺学～新たなる飛躍～」のテーマで、多方面から甲状腺疾患について講演、発表、活発な討論がありました。当院からも右記に示しますように、一般演題が13題、特別講演3題の発表がありました。甲状腺疾患の研究従事者、甲状腺疾患を診療している医師、看護師、薬剤師含むさまざまな職種の人々が集まり、日常の疑問点の共有や意見交換をし、最新の知識を確認し、また取り入れることができ、非常に有意義でした。

同時に日本甲状腺学会創立60周年記念式典が盛大に開催されました。さらに創立60周年にあわせて、日本甲状腺学会雑誌増大号として「甲状腺ホルモンと関連疾患」の和文版、英文版が刊行されました。編集員には当院吉村弘内科部長が加わり、渡邊奈津子医師と吉原も執筆を担当いたしました。

学会で得た最新の知見を日々の診療に活かし、今後も甲状腺専門病院としての役割を担っていききたいと思います。



発表演題

北川 亘	エクルーシス試薬サイログロブリン2を用いた頸部リンパ節転移の穿刺液中サイログロブリン値について
宇留野隆	甲状腺未分化癌の治療成績は向上しているのか？
松津賢一	乳頭癌の予後予測におけるAJCC/UICC TNM 8版と7版の比較検討
大江秀美	当院で経験した先天性甲状腺片葉欠損107例の臨床的特徴
尾作忠知	過去に甲状腺濾胞癌と診断された組織標本の再評価と臨床経過の検討
國井 葉	バセドウ病に対するアイソトープ治療後における、無機ヨウ素による甲状腺機能コントロール食品からのヨウ素摂取量が甲状腺機能に及ぼす影響について
鈴木菜美	TSBAb強陽性にも関わらず甲状腺機能亢進症を呈するバセドウ病の1例
鈴木美穂	橋本病でのTgAbとTPOAbのIgGサブクラスの特徴
田所梨枝	甲状腺原発MALTリンパ腫の長期予後
大倉 雅	小児バセドウ病疾患に対する情報提供におけるニーズの検討
瀧野有希子	バセドウ病患者のヨウ素制限食に関する困難感の実態調査
村上枝穂	外来細胞診検査を受ける患者への現在の説明方法・内容での理解度や患者が求める情報についての実態調査

特別講演

吉原 愛	潜在性甲状腺機能低下症における妊娠前・妊娠中・産期の甲状腺ホルモン補充療法の実践
渡邊奈津子	バセドウ病治療ガイドライン2011のMindsに準拠した改訂
板垣陽香	分子標的薬治療における外来看護師の役割

座長

伊藤公一	腫瘍
杉野公則	AFTN
吉村 弘	専門医教育セミナー
岩久建志	抗甲状腺薬の副作用
渡邊奈津子	バセドウ病・甲状腺眼症
石澤 緑	甲状腺診療における看護師の役割
大島由美	メディカルスタッフ

学会活動

ピックアップ 第50回 日本甲状腺外科学会学術集会

伊藤病院 外科 友田智哲

2017年10月26日、27日に福島にて開催された第50回日本甲状腺外科学会及び翌28日の第4回甲状腺、副甲状腺術中神経モニタリング研究会に参加してまいりました。日本甲状腺外科学会には、当院からは、下記の様に口演、ポスター発表、ワークショップ、ランチョンセミナー等多数の発表を行いました。また、女性甲状腺外科医朝食会や福島県立医科大学RI(アイントープ)病棟見学ツアーなどの新しい試みも行われ、女性医師のキャリアアップの問題点や福島原発事故後の甲状腺に関わる問題点などについて、再度考える機会となりました。

甲状腺、副甲状腺術中神経モニタリング研究会は、患者様の術後音声に影響する反回神経や上喉頭神経外枝といった神経を術中温存するツールとして重要な“神経モニタリング”に特化した特殊な研究会です。第1回から参加しておりますが、毎回新しい発見や手技の紹介などがあり、とても有意義です。今回は、“術中神経モニタリングのラーニングカーブの検討”といった題目で、当院に在籍している多くの外科医に対して、どのようにeducationし、どの程度trainingし知識を共有すれば術中神経のモニタリングの手技として安定するのかといった内容を発表しました。

今後もこのような学会を通じて得た知識や経験を患者様の治療に役立てることができるように、邁進していきたいと思っております。



伊藤公一院長

発表演題

北川 亘	当院で経験した甲状腺腫瘍分類境界病変(NIFTP)の検討
長瀧充二	レンバチニブの導入期中血中濃度を指標にした甲状腺癌治療法の検討－第二報－
大見由奈	vandetanibの使用経験4例－副作用の観点から－
田中智章	バセドウ病患者における気管狭窄率に及ぼす因子の検討
友田智哲	1年以上レンバチニブを使用した患者の支持薬物療法について
正木千恵	甲状腺癌に対するレンバチニブ治療における蛋白尿と腎機能の検討 ----- 甲状腺癌レンバチニブ治療にEarly Tumor Shrinkage (ETS)の概念は当てはまるか?

特別講演

伊藤公一	甲状腺疾患専門病院管理者から見た女性外科医師への期待
長瀧充二	原発性副甲状腺機能亢進症に対する手術治療－持続性副甲状腺機能亢進症症例を考える－
鈴木章史	髄様癌成分が進行し、複数の分子標的薬治療を行った混合型髄様・乳頭癌の1例
西塚永美乃	甲状腺術後患者の疼痛マネジメント

座長

伊藤公一	分化癌
杉野公則	手術
長瀧充二	バセドウ病
北川 亘	分化癌
大桑恵子	女性甲状腺外科医の会

ランチョンセミナー

杉野公則	進行・再発性甲状腺分化癌に対するレンビマ導入のタイミングを考える
友田智哲	術中持続神経モニタリング



杉野公則副院長



北川亘診療技術部部長



長瀧充二外科部長



大見由奈医師



田中智章医師



友田智哲医師



鈴木章史医師



正木千恵医師

◆第4回 甲状腺・副甲状腺術中神経モニタリング研究会

友田智哲 「術中神経モニタリングのラーニングカーブの検討」
杉野公則 座長「IONMの適応症例」

当院で甲状腺手術教育プログラムが開催されました

ペースメーカーをはじめとする幅広い医療機器の開発・製造・販売を行っている日本メドトロニック/コヴィディエンジャパンが共同主催する「甲状腺手術教育プログラム」が8月30日に当院で開催され、北川亘診療技術部部長が講師を務めました。

甲状腺周辺には、声帯をコントロールする反回神経を始め、さまざまな神経・血管が集中しており、手術では細心の注意が必要です。北川部長は、患者様のご病状に応じた手術の術式の選択、エナジーデバイスの利点や使用時の留意事項などについて実際の手術症例を交えてご説明しました。

講演後には、活発な意見交換も行われました。この度のプログラムが、参加された先生方の日々の診療の一助となりましたら幸いです。



松本検査技師が母校広報誌で紹介されました

松本臨床検査技師の卒業校である大成高等学校が、同校生徒さんや近隣の中学生に配布されている広報誌「TAISEI NAVI」の取材を受け、卒業生を紹介するコーナーに掲載されました。



大成高等学校は、1897年に創設され、大器晩成を願う精神のもとで生徒たちが安心して学び、部活動や行事に積極的に参加し個性を磨くことを大切にされているそうです。記事では、松本技師の高校生活や進路の選択、臨床検査技師となり従事している当院での業務などについて紹介されています。

現在は、臨床検査技師としてより多くの知識・技術を身につけるべく取り組んでおります。今回の取材を受けて、私も身の引き締まる思いであり、また記事が学生の参考になりましたら幸いです。(松本)

名称変更のお知らせ

名古屋甲状腺診療所 事務長 高田博史

2004年の開院以来、長らく皆様にお世話になっていた「大須診療所」は、2018年1月1日より「名古屋甲状腺診療所」として名称変更し、新しくスタートすることになりました。

今後も引き続き、安全で質の高い甲状腺疾患の専門診療のご提供に尽力してまいりますので、よろしく申し上げます。

NAGOYA

名古屋甲状腺診療所

中日健康フェアで講演しました

名古屋甲状腺診療所 事務長 高田博史

9月2日～3日に名古屋医専総合校舎スパイラルタワーズにおいて、第5回目となる中日健康フェアが開催されました。中日健康フェアは「学校の授業」をコンセプトに、病気を知り、健康に関する情報をわかりやすく提供する機会として中日新聞社が企画したもので、毎年約1万人の方々が参加されています。



甲状腺の病気について知っていただく良い機会でもあり、当診療所も積極的に参加しております。今回は、「知ってほしい！甲状腺のこと」をテーマとして、藤田保健衛生大学病院 一般外科学内分泌外科 日比八束教授と、椿院長が甲状腺の病気について詳しく講演しました。また、ココカラウィメンズクリニック 伊藤加奈子院長は、婦人科の立場から更年期障害と甲状腺の関係などもご紹介いただき、参加者にも興味深い内容となったかと思われます。

事前の参加受付では、定員を上回る多数のご応募をいただいたため、当日は抽選で当選された250名の方が会場にお集まりになり、聴講されました。会場では、「甲状腺とその病気について正しい知識を持って、明るく楽しく毎日を送りたい」など、多くのご意見も頂戴いたしました。今後も甲状腺を病む方々へ情報を発信してまいります。

名古屋甲状腺診療所(旧 大須診療所)

住所: 愛知県名古屋市中区大須4-14-59

電話: 052-252-7305 FAX: 052-252-7308

H P : kojin-kai.jp/nagoya



表参道寄り道スポット

Lounge1908 Café

表 参道駅B1出口から徒歩3分。骨董通りを歩いているとお洒落なお店が見えてきます。テラスにはかわいいカラフルな椅子が並んでいて、ちょっと休憩して行こうかな。という気持ちにさせます。

『Lounge1908』の由来は、オーナーの中村さんが名誉領事として



支援してきたコロンビアと日本が国交を開始した年とともに、多くの人々が訪れコミュニケーションの取れる、そしてその輪が広がっていく場所としてこのお店が出会いや寛ぎを提供できるようなラウンジでありたいという想いからネーミングしたそうです。白とグレーを基調にして、大理石を使った店内はまさにホテルのラウンジで、オーナーの想いがそのまま伝わってきます。



おすすめ『クロワッサンフレンチトースト』は、日本初上陸でベースがシナモンシュガークロワッサントースト。キャラメリゼバナナとメープル&クリームのとろけるような甘さと、塩をきかせたベーコンとチーズが絶妙にマッチしています。

一緒にこだわりのコーヒーもいかがでしょうか？ コーヒー豆はお店で丁寧に焙煎されていて、アメリカンプレスという抽出器具を使用しています。エスプレッソベースから選ぶことが出来、味は深みがあって濃いのですが、苦いわけではないので、コーヒーが苦手な方でも飲みやすいと思います。その他にも厳選されたコロンビア豆のスペシャルティ

ドリンクだけでも気軽にご利用して頂きたいです。待ち合わせにも、お仕事の合間のランチタイム、打ち合わせなど様々な用途でお気軽にご利用ください。夜もしっかりと満足できるメニューもご用意しています。



コーヒーなどもあるのでおすすめです。なお、クロワッサンのメニューは15時までのオーダーとなっているので、お気をつけください。



クロワッサンフレンチトースト
1,400円(税別)



店名 Lounge 1908 Café
住所 港区南青山5-8-10 萬葉庵ビルⅡ 1F
TEL 03-3400-7124
営業時間 9:00 ~ 22:00
BREAKFAST: 9:00 ~ 10:45 (L.O.)
LUNCH&TEATIME: 11:00 ~ 15:00 (L.O.)
ALL DAY: 15:00 ~ 21:00 (L.O.)
朝食営業、ランチ営業、日曜営業
定休日 不定期
携帯電話充電 有り
WiFi 有り
平均価格 1,000円
アクセス 東京メトロ各線「表参道駅」
B1出口より徒歩3分
伊藤病院から約15分



表参道ランチ&グルメ情報

OMOTESANDO BACCHUS

 表参道の裏路地を歩いていると、植物で飾られた華やかなテラス席が目に入り、つつい入りたくなるようなオシャレなお店があります。こちらは地中海料理の「表参道バッカス」さんです。ニューヨークのレストランのような雰囲気店内。テラス席へとつながる1階のフロアはランチ時には日差しが入り込みとても開放的です。個室やソファ一席もあり1・2階で110席あります。



ランチメニューは、海鮮野菜がたくさんはいったパエリア(1,000円)や、女性に嬉しい彩り野菜のBACCHUS 丼(1,000円)が有名で、天気の良い日には、テラス席で外の風を感じながらお食事を楽しめます。テラス席では、夏はもちろんのこと、冬でも温かく楽しむことができるようにパラソルストーブやブランケットの貸出もあります。そしてランチ一番の人気メニューは、なんといっても肉料理！！牛ロースステーキ(1,500円)はボリュームたっぷりで大満足です！



過替ランチ(1,000円～)もあり、定番のメニューだけではなくいろいろなバッカスさんの肉・魚料理も楽しんでオススメです。すべてのランチメニューにはサラダ・ドリンク・スープのビュッフェがついてとてもお得です。お子様連れでも入りやすい店内の

席と席の間は広めになっていて、ランチタイムは特に女性に人気があります。

賑やかな表参道から一步裏路地へ入り、開放的でゆったりとしたランチタイムを過ごされてはいかがでしょうか。



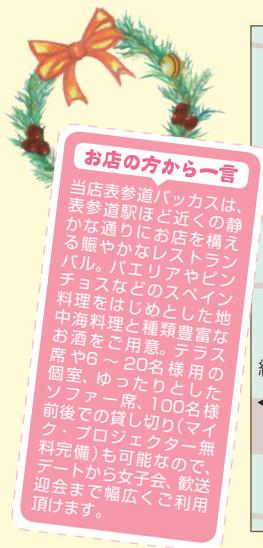
パエリア
1,000円(税込)



BACCHUS丼
1,000円(税込)



牛ロースステーキ
1,500円(税込)



店名	OMOTESANDO BACCHUS		
住所	港区北青山3-8-12 1.2F		
TEL	03-5468-7750		
FAX	03-5468-7752		
営業時間	月～金	ランチ	11:30～15:30 (L.O.15:00)
	月～木	ディナー	17:00～23:30 (L.O.22:30)
	金	ディナー	17:00～24:00 (L.O.23:00)
	土・日・祝日	ランチ	11:00～15:30 (L.O.15:00)
	ディナー	17:00～23:00 (L.O.22:00)	
定休日	年中無休		
アクセス	地下鉄 表参道駅 B2・A1 番出口 徒歩3分		
	当院から徒歩3分		
総席数	110席 個室・テラス席あり		
	ベビーカー可 ペット可		

分子標的薬について

伊藤病院 外科 正木千恵



1. 分子標的薬とは

分子標的薬とは、異常な細胞(がん細胞)の持つ特徴的な性質を分子レベルで捉えてその部分のみを標的とし効果を発揮する、新しいタイプのお薬です。なかでもがん治療を目的としたお薬は、従来の殺細胞性抗がん剤と異なり、目的の標的を持つ腫瘍に劇的な治療効果があります。わが国では2014年より甲状腺がんの使用可能となり、現在ネクサバル、レンビマ、カプレルサの3剤が甲状腺がん承認されています(図1)。

2. 甲状腺がんに対する分子標的治療

(1) 対象となる方

この薬を使用するのは、甲状腺がんが転移再発している方の中でも、手術や放射性ヨウ素内用療法などの従来の治療方法を行ってもがんが大きくなり続け、かつ分子標的薬以外の治療手段がない場合のみです。薬は毎日内服します。治療を開始するとやめることが非常に難しく、かつ高額な医療費がかかる薬剤です。よってどのような状況の方がどのタイミングで分子標的薬治療を開始するかは非常に慎重に判断しています。

(2) 期待される効果(メリット)

病変の発育を抑え縮小させることで、骨転移によるしびれや胸に水が溜まって息苦しい、などの症状を取り、延命を目指します。

(3) 問題点(デメリット)

薬剤ごとに特徴的な副作用を有しており、ほとんどの方に何らかの副作用が出現します。症状や採血データを見ながら薬を減らしたり(減量)一次的にお休みしたり(休薬)しながら、長く飲み続けられるように調整をします。

3. 現在分子標的薬治療を受けている方、近々分子標的薬治療を検討している方へ

この治療では専任の外来看護師や薬剤師、栄養士などがチー

ムとなって関わります。担当医から分子標的薬を勧められた場合には通常の外来以外に時間を設け、お薬の概要や副作用、治療中の生活の注意事項などについて説明いたします。また、もともと高血圧や歯周病、白癬(みずむし)などをお持ちの場合は分子標的薬を開始することでこれらの病状が悪化することがあるため、あらかじめ治療していただいています。治療中は定期的に頻回の通院が必要で、受診時には血圧やがんの痛みや副作用などのチェック、栄養相談など、医師による診察の他にも多職種のスタッフが関わりながら共に病気と向き合っていきます(図2)。さらには、病気に対する思いや家族のこと、お金のことなど、様々な角度から相談に乗らせていただくことも多くあります。

このように、分子標的薬は開始を決定すると多角的にケアやサポートを要する治療薬です。例え治療の適応がある場合となってもこのような治療を希望しないという考え方も尊重されます。私たちは患者様のニーズを汲み取り、患者様に寄り添った医療を提供できるよう皆様をサポートしてまいります。

図1 甲状腺がん承認されている分子標的薬

商品名	ネクサバル	レンビマ	カプレルサ
一般名	ソラフェニブ	レンバチニブ	バンデタニブ
適応	根治切除不能な分化型甲状腺がん	根治切除不能な甲状腺がん	根治切除不能な甲状腺髄様がん
用法	1日2回 内服	1日1回 内服	1日1回 内服
主な副作用	手足症候群など	高血圧、下痢、倦怠感など	心電図異常、皮膚症状など

図2 診療に携わる主なスタッフ



多発性内分泌腫瘍症について

伊藤病院 外科医長 宇留野隆



多発性内分泌腫瘍症(Multiple Endocrine Neoplasia: MENと略し、エムイーエヌと読みます)は主に内分泌臓器(甲状腺、副甲状腺、脳下垂体、膵臓、副腎)に生じる病気です。臨床像からMEN1型、MEN2型にわかれており、さらにMEN2型はMEN2A、MEN2B、家族性甲状腺髄様がん、の3型に分けられます。

多発性内分泌腫瘍症1型(MEN1)

MEN1は、副甲状腺機能亢進症、膵消化管神経内分泌腫瘍、下垂体腺腫を主徴とし、それ以外に副腎、胸腺、気管支、皮膚などに、良性・悪性の腫瘍が多発する遺伝性疾患です(表1)。当院は、副甲状腺機能亢進症に対する治療を担当することになります。副甲状腺は、甲状腺の近傍にある内分泌臓器で、通常は4腺あり、血液中のカルシウムの調節を担っています。MEN1でない(遺伝性でない)副甲状腺機能亢進症(95%以上)は、1腺の病的副甲状腺(副甲状腺腺腫)を切除することにより治療が見込まれますが、MEN1に関連する(遺伝性の)副甲状腺機能亢進症(5%以下)は、4腺すべてを切除し、一部の副甲状腺組織を前腕の筋肉内に移植します。

表1 MEN1の診断基準

以下のうちいずれかを満たすものをMEN1と診断する。

1. 原発性副甲状腺機能亢進症、膵消化管神経内分泌腫瘍、下垂体腺腫のうち2つ以上を有する。
2. 上記3病変のうち1つを有し、親、子、兄弟姉妹にMEN1と診断された人がある。
3. 上記3病変のうち1つを有し、MEN1遺伝子の病原性変異が確認されている。

多発性内分泌腫瘍症2型(MEN2)

MEN2は、甲状腺髄様がん、副腎褐色細胞腫(MEN2A、2B)、副甲状腺機能亢進症(MEN2A)、粘膜神経腫(MEN2B)を主徴とする遺伝性疾患です(表2)。当院は、甲状腺髄様がんと副甲状腺機能亢進症に対する治療を担当することになります。MEN2でない(遺伝性でない)甲状腺髄様がんは、必ずしも甲状腺全摘を必要とはしませんが、MEN2に関連する(遺伝性の)甲状腺髄様がんは、甲状腺全摘が必須になります。

表2 MEN2の診断基準

1. 以下のうちいずれかを満たすものをMEN2と診断する。
 - ・甲状腺髄様がんと副腎褐色細胞腫を有する
 - ・上記2病変のいずれかを有し、親、子、兄弟姉妹にMEN2と診断された人がある
 - ・上記2病変のいずれかを有し、RET遺伝子の病原性変異が確認されている。
2. 以下を満たすものを家族性甲状腺髄様がんとして診断する。
 - ・家系内に甲状腺髄様がんを有し、かつ甲状腺髄様がん以外のMEN2関連病変(副腎褐色細胞腫、副甲状腺機能亢進症、粘膜神経腫など)を有さない人が複数いる。

多発性内分泌腫瘍症(MEN)と遺伝

MENの患者様では、たくさんある遺伝子のうちの一つに変異(遺伝子暗号の変化や喪失)がおきています。両親から受け継いだこの遺伝子の2つのうち1つに変異があると9割以上の人は生涯の間にMENの症状があらわれます。つまりMENになるのは体質的な要因が原因であり、食事や生活環境などの要因は発症には関係しません。また遺伝子の変化が原因であるため、この変化を受けた遺伝子が親から子へ受け継がれることにより、MENになる体質も受け継がれることになります。私たちはそれぞれの遺伝子を2つずつ持っており、2つのうちの1つを子に伝えるしくみになっていますので、MENの体

質が子に受け継がれる確率は性別に関係なく50%になります。この体質を受け継いでいるかどうかについては、採血検体を用いて、遺伝子検査を行うことにより、診断することが出来ます。

遺伝カウンセリング

遺伝カウンセリングとは遺伝性の病気について、患者様や家族が診断や治療のことも含めて病気に対する正しい知識を持ち、遺伝のしかたや家族への影響を正しく認識し、それらに基づいた将来へ向けての意志決定を援助する医療行為です。MENの遺伝カウンセリングが必要となる場合には、

1. すでにMENと診断されている患者様や家族に対して、病気についての情報を提供する場合
2. MENが疑われるが臨床的には確実に診断ができないため、診断目的の遺伝子検査を考慮する場合
3. 患者様の家族に対して、同じ変異を持っているかどうかの遺伝子検査を考慮する場合
4. 結婚や出産に際しての悩みに対するカウンセリングなどの場合があります。

家族スクリーニング

MENは、遺伝子が原因の病気なので、血縁関係のある家族の方は、同じ病気に現在罹患している、あるいは、将来発症するリスクは高いといえます。遺伝子検査を行うことで、発症リスクを診断することが可能です。また、遺伝子検査を希望しない場合でも、採血検体を用いたホルモン検査や各種画像検査で、現在の罹患の有無は診断できます。検診を受けていただくことで、病気の早期発見、早期治療につながりますので、MENの患者様と血縁関係のある家族の方には、検診をお勧めしています。

※特に専門的な遺伝カウンセリングを希望される患者様は、木曜午前中の、宇留野外科医長(臨床遺伝専門医、暫定家族性腫瘍指導医)の外来を受診ください。



皆さん、風邪などひかずに元気に過ごされているでしょうか。今回のテーマは「風邪の予防について」ですが、まずは風邪についてお話しします。

風邪とは医学的には感冒＝かぜ症候群といいます。感冒とは感染(80%以上がウイルス感染)によって生じる上気道(鼻から鼻腔、鼻咽腔、咽頭、喉頭まで)を中心とした急性炎症で、短期間に自然軽快するものの総称です。

主な原因ウイルスはライノウイルス、コロナウイルスが多く、RSウイルス、パラインフルエンザウイルス、アデノウイルスなどが続きます。くしゃみなどで飛散する飛沫を介してウイルスなどの病原体が、気道内に入って気道粘膜に付着し、侵入と増殖することから始まるとされています。

自覚症状として鼻症状(鼻水、鼻づまり)、咽頭症状(咽頭痛)が主体で、発熱、頭痛、全身倦怠感などがあります。下気道まで炎症が及ぶと下気道症状(咳、痰)が出現します。

ウイルス性の感冒であれば、安静、水分・栄養補給により自然に治癒するため、抗菌薬は不要です。ウイルスに抗菌薬は効果がないばかりか、耐性菌といって薬に対する抵抗力をもった菌が増える原因となるので、不必要な抗菌薬は使用すべきではありません。鼻汁を減らす薬、咳を止める薬、解熱剤の使用など、いわゆる対症療法を行います。しかし、扁桃に細菌感染を疑わせる分泌物が認められるような場合には、抗菌薬投与が必要になることもあります。

最後に予防についてですが、普段から予防することが重要です。特に、外出時にはマスクをし、外出後には手洗い、うがいを行います。また、くしゃみなどが出る際には鼻と口をティッシュや衣服で覆うなど咳エチケットを励行してください。なお、うがいについては甲状腺疾患をお持ちの方は、イソジンにはヨウ素が含まれているのでイソジンは使用しないようにしましょう。日頃から栄養バランスの取れた食事と十分な休息をとって、風邪をひかずに元気に冬を乗り切りましょう！(日本呼吸器学会のホームページから一部引用致しました。)

このコーナーでは、検査結果をお出しするまでの流れや、検査機器のしくみについて、ご紹介してまいります。

アイソトープ検査

伊藤病院 放射線検査室 沼田美紅

Q.アイソトープ検査とは?

アイソトープとは放射性同位元素(radioisotope: RI)のことを指し、アイソトープの持つ物理的・化学的特性を利用して生理学的機能検査や代謝診断などの検査を行うのがアイソトープ検査です。

アイソトープを標識した薬が入ったカプセルを飲んだり、注射したりすることで体内の標的部位にアイソトープが集積します。そのアイソトープからでている放射線(γ線)をガンマカメラで画像化し形態や代謝を調べています。



●放射性ヨウ素甲状腺検査●

当院では、放射性ヨウ素(^{123}I , ^{131}I)を用いて甲状腺摂取率測定と甲状腺シンチグラフィを行っています。摂取率とは、甲状腺にどれだけヨウ素を摂取する能力があるかを表す値で、正常値は10～30%と言われています。甲状腺シンチグラフィではガンマカメラを使い、放射性ヨウ素が甲状腺のどの位置にどのように分布しているのかを調べています。代表的な疾患はバセドウ病で、甲状腺の形に全体的に集積します。バセドウ病と同じ甲状腺機能亢進症でも、画像的に対照なのは無痛性甲状腺炎で、集積がありません。



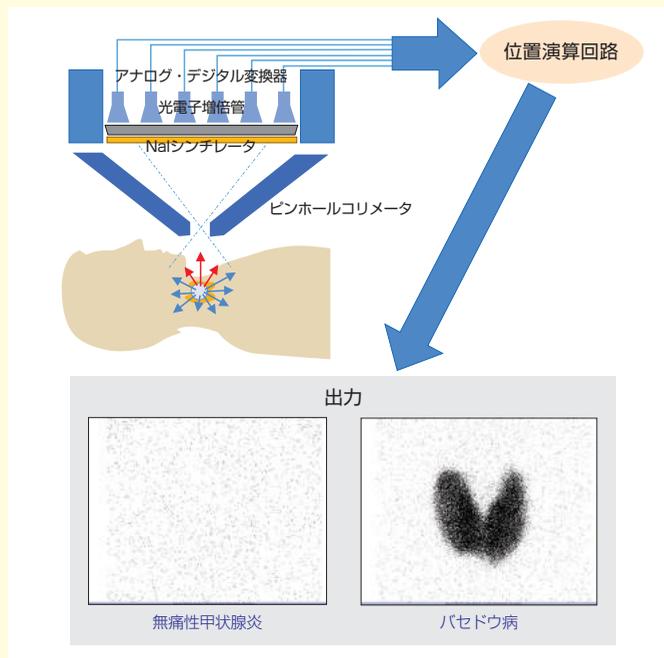
甲状腺摂取率測定

●ガンマカメラの仕組み●

アイソトープから出ているγ線を目視することは出来ません。ガンマカメラではγ線をNaI(Tl)シンチレータという装置を使って光に変換します。その光をさらに増倍し、位置を計算することで画像化を行っているのです。



ガンマカメラでの撮影



また、アイソトープは放射状にγ線を発しています。それらすべてを感知すると、どこからγ線が出ているのかという正確な位置がわからなくなってしまいます。そこで、ある一定の方向のγ線を感知することが出来るようにコリメータという鉛でできた器具を装置に取り付けることで方向性を保っています。コリメータは用途によって種類が異なり、当院では小さな臓器である甲状腺を撮影することが多いため、拡大画像を撮像できるピンホールコリメータを多用しています。

「さっぽろ甲状腺診療所」が開院しました

さっぽろ甲状腺診療所 事務長 澤井敏樹

去る平成29年11月1日水曜日、約2年間の準備期間を経て、札幌市中央区にいよいよ「さっぽろ甲状腺診療所」を開院いたしました。

当診療所は医療法人社団甲仁会として2番目の診療所で、伊藤病院、名古屋甲状腺診療所(旧 大須診療所)同様、甲状腺疾患専門医療施設として、伊藤病院内科医長を務めた岩久建志院長のもと、経験を積んだスタッフとともに、CT検査やアイソトープ診断・治療施設、その日のうちに血液検査の結果を出すことの出来る臨床検査設備を完備し、最良の診断・治療を行うことが可能な施設となっております。

開院に先立つ10月22日(日)には、日頃お世話になっております医療機関の皆様、今後お世話になります地元医療機関、医薬品卸や医薬品メーカー、金融機関等の皆様、建築に携わってくださった業者の皆様等をお招きし、内覧会を開催いたしました。当日は100名を越える多くの方に足をお運び頂き、新築間もない診療所をご覧いただきました。皆様から「大変立派できれいな診療所」とのお褒めの言葉と沢山のお花を頂戴し、門出をお祝いして頂きました。また10月29日(日)に

は、当法人理事長の伊藤公一、当診療所院長の岩久建志、伊藤病院外科医長の松津賢一の3名が講師となり、「甲状腺の病気-意外と知らない身近な病気-」と題して、市民公開講座を開催いたしました。おかげさまで1,200名を超えるご応募を頂戴し、結果的に抽選となってしまい、お越しいただけなかった皆様には大変申し訳なく思っております。事前のご質問も大変たくさん頂き、会場にお越し下さった市民の皆様も大変熱心にメモをお取りになる方が多く、甲状腺疾患に対する関心度の強さが伺え、期待の大きさと北海道の「甲状腺を病む方々のために」より良い診療をご提供する使命を改めて感じさせて頂きました。

このように皆様のご協力のもと、初日から多くの患者様にご予約をいただき、順風満帆にスタートすることが出来ました。まだまだ至らない点も多いですが、誠心誠意、初心を忘れず、甲状腺疾患に悩む方々の光明となる様、職員一同研鑽に励んで参ります。関東や東海、また全国からお越しいただいている皆様から、北海道の知人・ご友人にご紹介頂ければ大変有難く存じます。どうぞよろしくお願いいたします。



5F～3Fで診療しております



市民公開講座で講演する岩久院長(右写真)



さっぽろ甲状腺診療所

住所：北海道札幌市中央区大通西15丁目1-10

ITOメディカルビル札幌5F

電話：011-688-6440 FAX：011-688-6439

HP：kojin-kai.jp/sapporo



このコーナーでは、当院の診療連携施設であるやました甲状腺病院の情報をご紹介してまいります。

医療法人福甲会 やました甲状腺病院 理事長・院長 山下弘幸

やました甲状腺病院(旧やましたクリニック)の山下です。今回は“働き方改革と職員の幸せ”について2冊の本を読みましたので、簡単に紹介します。

慶応大学の前野隆司教授は、幸せになれる四つの因子をアンケート調査の結果から割り出しました。「やってみよう」という自己実現と成長、「ありがとう」と他者とつながり感謝の心を持つ、「何とかなる」という前向きと楽観、そして「ありのままに」と他者と比較せず自分らしさを持つ、の四つの因子です。ポジティブ心理学というのはパフォーマンスをベストに引き上げるためではなく、あくまでも幸せを感じるにはどうすればよいかを追求する学問ですが、幸せな人は創造性が3倍になり生産性が1.3倍になるという研究成果があります。心が整って幸福度が上がっていくと、わくわくしながら多様な仲間と囲まれ、パフォーマンスも上がってしまうということです。人生が好転していく黄金比率は positive 感情と negative 感情が3対1という説があるようです。本当に幸せな状態になるにはある程度のストレスをかけることが必要ということです。狭く深い人間関係より広く浅い関係が幸せであり、さらに他人の利益ために行動できる利他的な人は利己的な人より幸せという結果を報告しています。最近、働き方改革が話題になっています。これは少子高齢化で労働人口が減少したことや電通事故(長時間の時間外労働で自殺)がきっかけになっています。前野教授は上から単に時間内に仕事を終了させなさいという号令を出しても何ら解決にはならず、上記にあげた4つの因子で幸せを迫ればおのずから効率上がり、時短も可能になると考えています。次に、伊那食品工業会長の塚越寛氏の“いい会社ってどんな会社ですか？社員の幸せについて語り合おう”という本からです。“はじめに”のなかで、本質的な意味で社

員を幸せにできない会社からは、どんどん人がはなれていく時代です、と述べており、塚越氏も社員の幸せが会社の発展に結び付くと考えています。経営者として、毎年少しずつでも着実に成長し、利益を出す、たくましい会社でなくては、倒産する恐れがあり、社員を幸せにできませんとも述べています。「ありがとうと言われるように、言うように」と先輩から学び、会社のスローガンとしたことも書かれてあり、前述の前野教授の考えと一致しています。次に伊那食品会社の取り組みについて少し紹介いたします。まず、掃除についてです。“掃除を無駄と軽視すれば多くを失う”と考えて、全職員で行っていることです。どこが汚れているか自ら探そうとするので、気づきの力が高まる。これが顧客の困りごとをいち早く察して対応するなど仕事の上でも大いに役立つ。どのような方法で掃除すればきれいになるか知恵をしばって実行するので発想力や行動力が高まる。掃除の対象物に愛着がわいてきてものを大事にする効果があり、周囲の人に対して思いやりをもって大切にする効果がある、などの効用を考えているようです。会社の敷地は広いようですが、朝早くから公道を含めて掃除をしているとのこと。

職員に幸せになってもらい会社(病院)の生産性が高まればそれ以上のことはないと感じた次第です。皆様方も上記の4つの因子を達成できるように努力してみたいかがでしょうか？よろしく御願いたします。



医療法人 福甲会
やました甲状腺病院
〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1-8
<http://www.kojosen.com/index.html>
TEL : 092-281-1300 FAX : 092-281-1301

学会活動

- 第21回 茨城県地域医療学術集会 (8/20・常陸大宮)
鈴木章史 「きっと役立つ甲状腺診療あれこれ」その5 2017夏
- 第9回 東京TCAT カンファレンス(9/1・東京)
友田智哲 「肺転移及び出血を伴う上咽頭再発症例に対してレンバチニブ使用した症例～1年後～」
石垣貴之 「甲状腺髄様癌術後にカルシトニン、CEAが比較的急速に上昇し遠隔再発を来した 若年者MEN 2Aの症例」
- 甲状腺癌治療カンファレンス(第2報)(9/2・札幌)
杉野公則 特別講演「甲状腺がん治療における最新の話題とレンビマ®の位置づけ」
- 第17回 日本内分泌学会 四国支部学術集会(9/2・香川)
大江秀美 特別講演「甲状腺機能検査の測定やその解釈における問題点」
- 第9回 抗加齢内分泌研究会(9/3・東京)
渡邊奈津子 特別講演「エイジングを考慮した橋本病の管理～高齢者における注意点は?～」
- 第18回 日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会(9/8～9・高崎)
渡邊奈津子 「バセドウ病に対する¹³¹I内用療法(RIT)後の繰り返す無痛性甲状腺炎様機能変動に対し高吸収線量のRIT追加が奏功した1例」
吉村 弘 特別講演「甲状腺疾患診断治療の基礎とピットフォール」
- 第59回 全日本病院学会 in 石川(9/9～10・石川)
北川 亘 「細胞診ニードルアタッチメントの独自作製によるコスト削減の試み」
石澤 緑 「主任のマネジメント能力と研修ニーズの調査」
大島由美 「術後訪問体制の構築～継続看護の充実を目指して～」
片山治紀 「甲状腺癌に対するリコンビナントヒトTSH(rhTSH)を使用したアブレーションの有用性 ～休薬法との比較～」
松井亮子 「Lenvatinibによる手足症候群に対するマネジメント」
三崎愛莉 「Pepperくんを用いた栄養指導」

水戸侑香 「甲状腺未分化がん患者の終末期意思決定プロセス支援～エンド・オブ・ライフケアの視点から考える～」



- 第39回 日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会(9/23～24・大宮)
北川 亘 特別講演「甲状腺乳頭癌頸部リンパ節転移の超音波像と手術術式の決定について」
國井 葉 座長「甲状腺・副甲状腺」

講演活動

- 超音波セミナー 2017 医師限定 実地医家のための日常診療に活かす最新トピックスと甲状腺エコー (8/26・東京)
北川 亘 「日常診療に活かす甲状腺超音波検査～専門病院ではこう診る～」
- 超音波セミナー 2017 医師限定 実地医家のための日常診療に活かす最新トピックスと甲状腺エコー (8/26・仙台)
藪田智範 「甲状腺疾患の診断と治療～甲状腺エコーを中心に～」
- 甲状腺がんを語る会 in 八王子(9/15・東京)
鈴木章史 「甲状腺分化癌治療戦略 ～ lenvatinibを中心としたTKI management～」
- レンビマ2周年記念講演会 in TOKYO(9/20)
杉野公則 「甲状腺分化がんに対するレンビマ治療の問題点と知見 -伊藤病院での経験例から」
- 甲状腺癌 Expert Meeting(9/28・東京)
鈴木章史 「甲状腺分化癌治療戦略 ～ lenvatinibを中心としたTKI management～」
- 第6回 広島甲状腺疾患研究会 (10/13・広島)
吉原 愛 「バセドウ病と骨粗鬆症」

表紙no写真

南青山ル・アンジェ教会

今号の表紙は、昨年撮影しました南青山にあるル・アンジェ教会の写真です。

ル・アンジェ教会の今年のイルミネーションのテーマは、「Fete de Noel」だそうです。12月1日から25日まで、ピンクゴールドの光できらめく入口を演出します。

また、毎年12月に病院の周りでも、人気の表参道イルミネーション、表参道ヒルズのクリスマスツリー（右写真）、アニヴェルセル表参道と東急プラザ表参道原宿の3箇所ですイルミネーションが行われています。

帰りにイルミネーションのスポットに寄ってみてはどうでしょうか？

(レトウル)



編集後記

寒さがひとしお身にしみるところとなりました。

冬の季節は外に出てイルミネーションを見たり、スキーやスノーボードなど楽しいイベントがたくさんありますが、私は家にもって、こたつでゆず生姜茶を飲みながらだらだらとテレビを見るのが楽しみです。

今号のVoiceで私は検査・医療機器のコーナーを担当しました。アイソトープに関しては知らないことばかりで私自身とても勉強になりました。

今後も皆さまに新しく新鮮な情報を届けていけるよう作ってまいります。

これからどんどん冷え込んでいきますので皆さまも体調には気をつけてお過ごし下さい。

(増山)

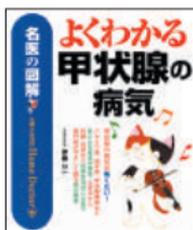
甲状腺疾患書籍のご案内

★いずれの書籍も伊藤病院1F売店で販売しております。ぜひ、ご利用ください。



「患者のための最新医学
バセドウ病・橋本病・
その他の甲状腺の病気」

監修：伊藤公一
定価：1,300円(税込)
発行：高橋書店



「名医の図解
よくわかる甲状腺
の病気」

著者：伊藤公一
定価：1,400円(税込)
発行：主婦と生活社



「ウルトラ図解
甲状腺の病気」

監修：伊藤公一
定価：1,620円(税込)
発行：法研



「甲状腺の
病気の治し方」

監修：伊藤公一
定価：1,300円(税込)
発行：講談社



「よくわかる最新医学
甲状腺の病気」

監修：伊藤公一
定価：1,512円(税込)
発行：主婦の友社

新刊



「図解 甲状腺の病気が
よくわかる
最新治療と正しい知識」

監修：伊藤公一・高見博
定価：1,510円(税込)
発行：日東書院

発行 2017年12月1日発行 第60号 伊藤病院広報誌委員会

ITO
HOSPITAL
伊藤病院

〒150-8308 東京都渋谷区神宮前4-3-6

TEL : 03-3402-7411

FAX : 03-3402-7415

URL : <http://ito-hospital.jp>